

最新
知識



食べて治す！



食物アレルギー



食物負荷試験

アナフィラキシー

エピペンの使い方

どうしたらいいの？



「この子は本当にアレルギーなのだろうか」そう思うことはありませんか？

本当に重症のアレルギー患者を守るためには、限られた人手を必要な所に集中させる必要があります。食物アレルギーに対する考え方は大きく変化しており、妊娠中や授乳中に卵や牛乳を食べない、離乳食を遅らせた方が良いという説は、すでに根拠がないと否定されています。食物負荷試験や経口免疫療法といった最新のアレルギー診療、厚生労働省のガイドラインに基づいた給食など集団生活における対応を解説します。

11月1日 火
14:00~16:00

横浜情報文化センター
7階 情文ホール

先着200名様

資料代 500円

母子保健・療育・教育・保育等の従事者対象

 **さいたま市民医療センター**

小児科 科長 西本 創

埼玉県やさいたま市の教育委員会、こども未来局のアレルギー対応マニュアルを監修し、行政と医療機関が連携して、アレルギー疾患に悩むこども達が不利益なく安全に過ごすことができるよう活動している。

医師向けの食物アレルギー診療ガイドライン作成協力者(社会的対応担当)



お申込み・お問合わせ

神奈川県小児保健協会事務局

神奈川県立こども医療センター 母子保健推進室

TEL 045-711-2351

共催：横浜市こども青少年局

後援：神奈川県・公益社団法人 神奈川県医師会・一般社団法人 横浜市医師会・公益社団法人 日本小児保健協会

協力：川崎市・相模原市・横須賀市・藤沢市